

私の夫は
少し変った性癖を持っています…

「はらりっやん」

（あ…こんな格好…）

「スリッパ…ここ
置くわね…あ…」

「い、今主人、出かけてで…
2時間位で戻る…かな？」

私が…そう…
自分の妻が…

（やあ…見えてる…？
うそ…おしり…見えちゃってるう…？）

あられもない姿態を
他の男性の前に晒すことが…

…とても興奮するらしく…
あつ…きよ、今日も？ああ…

（あ…見えてるう…
私の…胸…ち、乳首い…
見られちゃってるう…ああ…）

「ごめんね
ミルク、赤ちゃんにミルクの
時間なの…」

「ちよつと、あつ…
ま、待っててさ…
ね…」

（だめえ…
み、見ちゃ…だめえ…あつ）

今日も私は…
他の男性達にこの肉体を…
妻の…母の…
本来独占されるべき肉体を…ああ…



妻をおつまみ♥

夫の性癖は…
（他の男達に辱められる私の姿態を、
痴態を観察することです…

カラー22ページ

忠実に…

彼らのその期待に…

いた…そうです…

私の肉体を…肉を…

女の…人妻の…母親の肉を…
食って…もつと…
もつと乱暴にしてええつ…!!

…を…体液を…
えつ

穴という穴から
いやらしい肉汁を垂れ流す…
私の…人妻の肉を…皆さんで咀嚼して…

欲望に…

京子:29歳
人妻

『ペンション』

「はい」

トタ

「はいはい」

トタ

「ごめんね本宮くん…
あの人
主人が忘れ物して…」

(タ、タオル…
小さかった…かな…?)

「今、その書類持ってくるから…
わざわざ…」

(ちよつと見えちゃつてる…
かも…あ…や、やだ…)



「そろそろだ、お茶…飲んでいって？」

(ちゃんと隠せてる…よね?)

「ね？」



あ

は

「あ、あの、
この格好…その…
今、シャワー浴びようと思ってて…」

(大丈夫…よね?)

「その…今日、ほら、暑くて…
汗…かいちゃつたから…なの…」



キ

キ

は

今日は主人の部下のひとに
肉体を晒して…います…

本宮くん…

よく主人が家に連れてくる部下のひと…
わたしより5歳位年下…かな？

「え、ね、ねえ、
どうしたの本宮くん？」

「やだ…だめ…
見てるう…？」

明るくて、礼儀正しくて…
ちよつといたずら坊主で…

「あつ、あつ、あの、ね、
ち、違うのよ？ほんとに
シヤ、シヤワ…浴びたかった
だけなの…あつ」

（すごく…見てる…？
やつ、だめつ…私の…私の…）

私も普段はちよつとお姉さんっぽく
接してたんですが…ああ…

こんなはしたない姿態を
見せなきゃならないなんて…

こんな弟がいればいいなって…
だ、だから…

（ツヨ…見ないでえ…っつ）



「ね、ねえ…
どうしたの…?」

「あっ!?!」

「だっだめよっ!?!
ソコくばあしちやつ!」

「私の…コ…
なんか…へん…?」

「くちゅくちゅ
弄っちゃ…んっ!?!」

「あっ、指っ!?!
指挿入れちやつ!?!」

「めえっっ!?!」

「だめえっ!?!」

本宮くんは…彼は…

私の…大切なトコロを…
女性が一番恥ずかしいトコロ…
弱いトコロを…

指で、鼻で、唇で…
舌で…ときに歯で…

弄りたおし…
もてあそ
弄び…

私の意思とは無関係に
溢れ出るハシタナイ液を
啜り…味わい…

そのあとのことは…
ああ…

恥ずかしくて言えません…
あなた…

妻として貞淑であるべき
トコロ…

女が子を産み母親となる、
母の証明たるトコロを…

よく覚えていませんが
長い時間…それは続きました…

本当にこれで
よかったの…?

「ふふふふふふ…」

「今日は、大学お休み？」

このコはお隣にすむ大学生…

「あつ、ごらつめつ！」

「ち、違ふのよつ…んっ
い、今…んつき、着替えて…
んつてんっ」

一度、どうしてもって言うから
下着…あげたんです…それから…

週に3〜4回…

私にエッチなことをしていきます…

もうっ、

のくせに調子にのつてえ

「あ、母乳…
出ちやう…母乳垂れちやう
からあ…あつ」

おつ、お姉さん、んっ
お、怒つちやう…ぞ…んっ

「だ…めえ…
だめ…だつて…ば、んっ」

（ああ…このコ、すごくエッチな目で見てる…
フフ、なんか…ちよつと、カワイイかも…フフ）

ちよつと…
からかつちやおつかな…

「はい、コーヒ…
ミルクは…私の母乳で…
いい？」

なんて…
思ったのが
間違いでした…

「フフ、じょうだ…あつ…あつ…」

まだまだ
思つて…
私つたらばか…
調子に乗つてたのは
私の方…

「じよ、冗談よつ！？
だめつ、今、ちゃんと
ホントのミルク持つて…
んつくくる…ん、から…んつ」

彼は私の胸を揉み搾り…
乳首をしごき…

母乳を搾り出しました…
まるでお乳の出が悪い雌牛にするように…

そして、直接…

お願い、全部吸わないで…
赤ちゃんの分、残しておいてえ…

卷之五

1918

ゆえ

毛

7/18

らぬ

1915

あん

4

7/10/14

7/10

All
10
10
10



17

しめ縄

W
talk

んあ



初めて…だったのかな…

彼は…余裕なく腰を振り…

ひどく乾いた咽喉を
潤すように…

私の唇を食り…
唾液を吸い…

すぐに…

すぐに…

果ててしまいました…

私の中で…子宮で…

でも…若さって…
すごい…そして…
怖い…

すぐに回復して
勃起ち上がった彼の
ソレは…

主人のでは考えられない程
硬く…戻ったソレは…

私の…女性を…

何度も犯し続け…
何度も射精を…私に…
種を付けるように…

私の子宮は
彼の精液に満たされ…
溢れ…

ああ…
十歳位年下の…
男の子に…好きなように
肉体を蹂躪されてしまいました…

それから…

私の午後のコーヒー
タイムは…

彼の精液がたつぷり
入った…

彼特製の濃厚な…
濃厚な…カフェオレです…

町内会の懇親会…

「あ、あの…
皆さん、すみません…その…」

主人がお酒のおつまみを
用意する係りだったのですが…

「主人が…ご迷惑を…おかけして…」

「よろしければ…」

「ああ…やあ…」

すっかり忘れていた
(わざとです…)

…らしく…私は…

「わ、私で…よければ…」

(皆さん…見てるう…)

「私を…つまん…で…?」

(ああ…恥ずかしい…)

「しゅ、主人の使い古しで
も、申し訳ありま…せん…が…」

(牧田さんのご主人も…阿部さん
のご主人も…町内会長さんも…)

「その…つ
つまんで…ください…」

キラ

キラ

夫が…見ています…

間違っても乱れてしまつてはいけません…

貞淑な妻でいなければ…

気丈で…凛としていなければ…

愛してるのよ、あなた？
私を好きにできるのは…
あなただけ…なのよ…？

今ここにいる皆さんは…
知っている方ばかり…

夫を…諫めてくれる…
はず…

だから…
あ…あなたあ…

そう…きつと皆さん…
この状況をおかしいと
思うはず…

真摯な方達ですもの…
きつと…ひどいこと…
しない…わよね…

だめ…た、助けてえ…

そうすれば、夫もこんなこと
やめてくれる…かも…



山口さんのご主人：
休日はいつも
娘さんと公園で遊んでいる…



田中さんのご主人：
毎朝さわやかに挨拶して
くれる…



私の肉体を乱暴に…
執拗に求めてくる…



町会長さん…
頼りがいがあつて、
みんなにとっても信頼されている方…



私の体液を…母乳を…
搾り…吸り上げている…



とてもやさしい
パパ…



ああ…皆さんが…
いつもの皆さんじゃない…



ああ…私…

私…もう…

我慢…我慢できない…かも…
ああっ

嬌声が…
はしたない…雌の喜びの悲鳴が
口から…漏れ出してきちゃう…

んっ
あゝ
めえ
ちゅ
んっ
うん
アム
らぬ
は
んっ
あゝ
アム
んっ
あゝ

私…もう…

我慢…我慢できない…かも…
ああっ

嬌声が…
はしたない…雌の喜びの悲鳴が
口から…漏れ出してきちゃう…

んっ
あゝ
めえ
ちゅ
うわ
アム
らぬえ
は
んっ
あゝ
うわ
アム
んっ
あゝ

私…もう…

我慢…我慢できない…かも…
ああっ

嬌声が…
はしたない…雌の喜びの悲鳴が
口から…漏れ出してきちゃう…

んっ
あゝ
めえ
ちゅ
んっ
アム
うわ
らぬ
は
んっ
あゝ
アム
んっ
あゝ

嬌声が...
はしたない...雌の喜びの悲鳴が
口から...漏れ出してきちゃう...

我慢...我慢できない...かも...
ああッ

私...もう...

んっ
あゝ
めえ
ちゅ
んっ
アム
アム
うわ
んっ
あゝ

[illegible]

下のおクチも…
だらしなく、いやらしく…
涎を垂らして…ひくひくと…
痙攣して…

ああ…
あなたあ…私…

つままれてるぅ…

[illegible]

おつまみに…

あなた以外の男の人達に…
おつまみにされてるう…っ！

私を…隅々まで
味わってえっ

「じ…してえ…っ
ちゅぱちゅぱっ…してええっ」

私の母乳を…いやらしいお汁を…体液を…
もつと音を立てて啜り上げてえっ

つまんでえ…
もつと…もつとつまんでええっ

私の肉体を…肉を…

「す…す…いよお…
き、気持ち…ん…いいよお…
うそお…あ…うそおおつ」

女の…人妻の…母親の肉を…
食って…もつと…
もつと乱暴にしてええっ！！

「あなたあ…ああ…あなたあああつ…！！」

穴という穴から
いやらしい肉汁を垂れ流す…
私の…人妻の肉を…皆さんで咀嚼して…
食べつくして欲しいのおおっ…！！

「あなた…あなたあ…
見てっ…見て私…」

「つままれてるうっつ…！」

「皆さんに…皆さんに
いやらしい人妻の肉…
むしゃぶられてりゅっつっ…」

屹立とした肉棒…
いいの？
食べちやつて…いい…の？

さも当然のように
私の眼前に差し出される…

「ちよ…ちようだい…
男の人のお肉…ちようだい…
あつあつ、あつ…」

ああ…すごい…臭い…
おいし…そう…あ…

今にも精液が溢れ出そうな
硬く熱く膨張した肉棒…

強烈な雄の臭いが…味が
私の五感を刺激する…ああ…

「お…おちん…ちん
好き…大好き…んっんっ」

お口の中で活きのいい魚の
様に暴れる肉棒…

「逃がさない…んっ…だからあ…
離さない…んだか…らあ…」

あつ、下の…下のおクチも
ばくばくしてる…
お…ちんちん…欲しいって…
食べたいって…ばくばく…

涎をたらして…
おねだりしてるう…

い
挿入れてえ…
私の意地汚い…だらしない…
人妻マ○コを…

貫いてえええっ!!

「ああっ!!」

食べちゃった…
私の…下のおクチ…
人妻おマ○コがああ

おち○ぼ…
イケナイおち○ぼお
食べちゃったあああつ!

「…んっんっおっ…」



...

それから先のごとは...

よく覚えていないのですが...

休みなく、何度も...
何度も、何度も貫かれ...

穴という...穴を...
おしりの穴まで...

犯され...

まわ
輪姦され続け...



その場にいた男性達が...

入れ代わり立ち代り...

私の肉を捲り上げ...

粘膜を擦り...刺激し...
中まで...奥まで...

子宮を満たし...その精液が
溢れ出るほど...

射精を...繰り返し...

私は...

要求に...要望に...
欲望に...

忠実に...雌として...

彼らのその期待に...

応え続けていた...そうです...

夫の...目の前で...

雄の望む姿を...忠実に...



他の男性達の
精液に塗れた私は…

肉体中の穴という穴から
精液を噴き出す私は…

『きれいだった』と…

夫は言ってくれました…ああ…

私…
もう…戻れないかも…
しれません…

